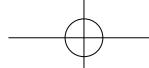


『新版 経絡経穴概論 拡大版』
第1刷から第2刷に伴う変更点

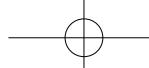
ページ数	変更箇所	変更前	変更後
xiv	「2. 國際標準化への歩み」3行目	1951年に國民療法が成立して <u>漢医師(東医)</u> の身分が	1951年に國民療法が成立して <u>漢医師(現在は韓医師)</u> の身分が
xix	1行目	4)取穴法	4)取り方(取穴法)
xix	7行目	② <u>榮(榮)穴</u> ／20	② <u>榮穴</u> ／20
12	図1-4 腫穴	奇穴：十四經脈上になく名称、部位、主治症が定まっている。	奇穴：十四經脈になく名称、部位、主治症が定まっている。
14	表1-2 骨度法 「上肢」1段目	手指尖～手関節横紋	中指尖～手関節横紋
16	項目見出し 1行目	4)取穴法	4)取り方(取穴法)
19	「(2)五俞穴・五行穴」4行目	<u>榮(榮)穴</u>	<u>榮穴</u>
20	6行目	本も多く、本書では <u>榮(榮)穴</u> とする。	本も多いが、本書では <u>榮穴</u> とする。
20	「② <u>榮(榮)穴</u> 」項目見出し	② <u>榮(榮)穴</u>	② <u>榮穴</u>
20	「② <u>榮(榮)穴</u> 」1行目	<u>榮(榮)穴</u> は脈気が溜る(したたる)ところ、	<u>榮穴</u> は脈気が溜る(したたる)ところ、
22	(5)の項目見出し	(5)八脈交会穴(はちみやくこうえつけつ)(別名：八総穴くはちそうけつ、八宗穴くはちそうけつ)(表1-9)	(5)八脈交会穴(はちみやくこうえつけつ)(別名：八総穴くはっそうけつ、八宗穴くはっそうけつ)(表1-9)
23	「(6)交会穴」4行目	足の少陽胆經が交わる	足の少陽胆經、足の厥陰肝經が交わる
35	「記載方法」3行目	2008年10月末時点	2010年3月時点
46	「脳戸」2行目	外後頭隆起の上際の陷凹中	後正中線上で、外後頭隆起の上際の陷凹中
52	「水溝」2行目	前正中線上で、鼻中隔直下と上唇結節との中点に取る。	前正中線上で、鼻中隔直下と上唇結節上縁との中点に取る。
52	「兑端」1行目	顔面部、上唇結節の中点。	顔面部、上唇結節上縁の中点。
66	「中庭」1行目	前胸部、前正中線上、胸骨体下端。	前胸部、前正中線上、胸骨体下端の中点。
80	「魚際」5行目	肺經の <u>榮(榮)火穴</u>	肺經の <u>榮火穴</u>
84	【經脈の流注】2行目	示指外方をめぐって、	示指外縁をめぐって、
86	「二間」6行目	大腸經の <u>榮(榮)水穴</u>	大腸經の <u>榮水穴</u>
94	「肘髎」2行目	上腕骨外側上顆上際の前方に取る。	上腕骨外側上顆上際の前縁に取る。
104	「承泣」1行目	瞳孔の <u>直下</u>	瞳孔線上
104	「巨髎」1行目	瞳孔の <u>直下</u>	瞳孔線上
112	「欠盆」7行目として(文字の追加)		*肺尖部に近い欠盆をはじめ、胸背部の經穴の刺鍼には気胸を起こさないように注意を要する。
124	「髀闕」3行目	恥骨結合下縁の高さに取る。	大転子頂点の高さに取る。
130	「豊隆」2行目	前脛骨筋の外側縁に取る。	前脛骨筋の外縁に取る。
132	「内庭」1行目	みずかきの近位	みずかきの後縁
132	「内庭」6行目	胃經の <u>榮(榮)水穴</u>	胃經の <u>榮水穴</u>
138	「大都」1行目	遠位内側陷凹部	遠位陷凹部
138	「大都」6行目	脾經の <u>榮(榮)火穴</u>	脾經の <u>榮火穴</u>
144	「血海」5行目	大腿神經(前枝)	大腿神經(前皮枝)
144	「箕門」6行目	大腿神經前枝	大腿神經(前皮枝)
160	「少府」8行目	心經の <u>榮(榮)火穴</u>	心經の <u>榮火穴</u>
164	「前谷」4～5行目(アスタリスクを削除して前の行のうしろへ)	*表裏の境目にあたる。	表裏の境目にあたる。
164	「前谷」7行目	小腸經の <u>榮(榮)水穴</u>	小腸經の <u>榮水穴</u>
166	「後溪」4～5行目(アスタリスクを削除して前の行のうしろへ)	*表裏の境目にあたる。	表裏の境目にあたる。
168	「陽谷」6行目	尺骨動脈(背側手背枝)	尺骨動脈(背側手根枝)
168	「養老」6行目	尺骨動脈(背側手背枝)	尺骨動脈(背側手根枝)
172	「肩貞」2行目	腋窩横紋の後端の上方1寸、	腋窩横紋後端の上方1寸、
174	「曲垣」1行目	肩甲部、肩甲棘の内側上方にある陷凹部。	肩甲部、肩甲棘内端の上方陷凹部。
188	「天柱」1行目	僧帽筋外側の陷凹部。	僧帽筋外縁の陷凹部。

(1) 医道の日本社



ページ数	変更箇所	変更前	変更後
208	「委陽」8行目として(文章の追加)		*深部に総腓骨神経が通る。
226	「足通谷」7行目	膀胱經の榮(榮)水穴	膀胱經の榮水穴
228	【経脈の流注】4~6行目	大腿後内側を上り、腹部の前正中線外方5分、胸部では前正中線外方2寸を上り、本經と合流する。 本經は、脊柱を貫いて、腎に属し、膀胱を絡う。	大腿後内側を上り、体幹では腹部の前正中線外方5分、胸部では前正中線外方2寸を上り、本經と合流する。 大腿後内側で分かれた本經は、脊柱を貫いて、腎に属し、膀胱を絡う。
230	「然谷」7行目	腎經の榮(榮)火穴	腎經の榮火穴
232	「水泉」3行目	伏在神經 ₁	伏在神經・
234	「交信」3行目	復溜の前方,	復溜の前方5分,
238	「氣穴」3行目	脇間神經(前皮枝) ₁	脇間神經(前皮枝)・
244	「或中」5行目	鎖骨上神經 ₁	鎖骨上神經・
254	「勞宮」12行目	心包經の榮(榮)火穴	心包經の榮火穴
256	「中衝」3行目	中指、爪甲角から近位外方1分(指寸),	中指、末節骨橈側、爪甲角から近位外方1分(指寸),
260	「関衝」2行目	爪甲尺側縁の垂直線と	爪甲尺側縁の垂線と
260	「液門」7行目	三焦經の榮(榮)水穴	三焦經の榮水穴
268	「肩髎」1行目	肩周囲部,	肩上部,
274	「糸竹空」4行目	眼神經(三叉神經第1枝) ₁	眼神經(三叉神經第1枝)・
276	【経脈の流注】4行目	外眼角より分かれた支脈は、大迎へ下り	外眼角より分かれた支脈は、[大迎]へ下り
280	「頷厭」1行目	頭部、頭維と曲髪を結ぶ曲線上、頭維から4分の1.	頭部、頭維と曲髪を結ぶ(側頭の髪際に沿った)曲線上、頭維から4分の1.
280	「懸顱」1行目	頭部、頭維と曲髪を結ぶ曲線上の中点.	頭部、頭維と曲髪を結ぶ(側頭の髪際に沿った)曲線上の中点.
280	「懸釐」1行目	頭部、頭維と曲髪を結ぶ曲線上、頭維から4分の3.	頭部、頭維と曲髪を結ぶ(側頭の髪際に沿った)曲線上、頭維から4分の3.
284	「頭竅陰」3行目	乳様突起底の後上方で,	乳様突起の後上方で,
284	「完骨」2行目	乳様突起基底部の後下方陷凹中に取る.	乳様突起の後下方陷凹中に取る.
286	「陽白」1行目	瞳孔の直上	瞳孔線上
286	「頭臨泣」1行目	瞳孔の直上	瞳孔線上
286	「目窓」1行目	瞳孔の直上	瞳孔線上
288	「正當」1行目	瞳孔の直上	瞳孔線上
288	「承靈」1行目	瞳孔の直上	瞳孔線上
296	「環跳」1行目	殿部、大腿骨大転子の頂点と	殿部、大転子の頂点と
304	「懸鍾」2行目	腓骨の前縁に取る.	腓骨の前に取る.
306	「俠溪」5行目	胆經の榮(榮)水穴	胆經の榮水穴
310	「大敦」1~2行目	爪甲角の近位外側1分(指寸)、爪甲外側の垂直線と	爪甲角の近位外方1分(指寸)、爪甲外側の垂線と
310	「行間」4行目	肝經の榮(榮)火穴	肝經の榮火穴
322	4行目	「II. 十四經脈のその経穴」で詳細は述べた.	「II. 十四經脈とその経穴」で詳細は述べた.
323	「陽蹻脈」11行目	胃經の地倉・巨骨・承泣,	胃經の地倉・巨髎・承泣,
323	「陰蹻脈」4行目	鎖骨上窩にある胃經の欠盆に入つて	鎖骨上窩(欠盆)に入つて
324	「陽維脈」1行目	陽維脈は膀胱經の金門から起り、脾經の後ろをめぐって	陽維脈は膀胱經の金門から起り、胆經の後ろをめぐって
340	「四華」1~8行目	患者を直立させ、長い細紐の中央部を督脈の大椎(督脈)にあてて頸に掛け、紐の両端をそろえて前胸部に垂らし、鳩尾(任脈)の部で切断する。この紐の中央部を甲状軟骨の上にあてて背部に回し、下端をそろえて脊柱上にあたるところに仮点を取る。この仮点に、別の短い紐で、患者の口を閉じさせ一方の口角から斜上方に鼻中隔直下を経て、他方の口角に至る長さを取り、その中央部を前記の仮点にあてて	①患者を直立させ、長い細紐の中央部を大椎(督脈)にあてて頸に掛け、紐の両端をそろえて前胸部に垂らし、鳩尾(任脈)の部で切断する。②この紐の中央部を甲状軟骨の上にあてて背部に回し、下端をそろえて脊柱上にあたるところに仮点を取る。③この仮点に、別の短い紐で、患者の口を閉じさせ一方の口角から斜上方に鼻中隔直下を経て、他方の口角に至る長さを取り、④その中央部を前記の仮点にあてて

(2) 医道の日本社



ページ数	変更箇所	変更前	変更後
342	「患門」1~9行目	患者を直立させ、長い紐の一端を足の第1指先端に当て、しっかりと踏ませて紐を足底から足根部中央を経て上方に伸ばし、下腿後面正中を上行させて委中(膀胱經)に至ってこれを切る。この紐の一端を鼻尖にあて、頭頸部および背部の正中線に沿って後方に垂らし、その下端があたる脊柱上に仮点を取る。別に短い紐で、患者の口を閉じさせ一方の口角から斜上方に鼻中隔直下を経て、他方の口角に至る長さを取り、その中央部を前記の仮点にあてて	①患者を直立させ、長い紐の一端を足の第1指先端に当て、しっかりと踏ませて紐を足底から足根部中央を経て上方に伸ばし、下腿後面正中を上行させて委中(膀胱經)に至ってこれを切る。②この紐の一端を鼻尖にあて、頭頸部および背部の正中線に沿って後方に垂らし、その下端があたる脊柱上に仮点を取る。③別に短い紐で、患者の口を閉じさせ一方の口角から斜上方に鼻中隔直下を経て、他方の口角に至る長さを取り、④その中央部を前記の仮点にあてて
348	「八風」3~4行目	足の痛み(脚気、足背痛、足指の発赤腫・しびれ・痛み・捻挫、関節リウマチ)	足の痛み(脚気、足背痛、足指の発赤・腫脹、関節リウマチ)
350	「小児斜差の灸」5行目	脊柱を越えて斜めに取る、小児疾患に有効な施灸点という	脊柱を越えて斜めに取る小児疾患に有効な施灸点という
352	「脚気ハ処の穴」4行目	* WHO の決定では、	* WHO/WPRO の決定では、
367	「その他」 (3)同音異字異穴(16組) 1行目	少海(足の少陰心經)	少海(手の少陰心經)
367	「その他」 (3)同音異字異穴(16組) 3行目	少衝(足の少陰心經)	少衝(手の少陰心經)
367	「その他」 (3)同音異字異穴(16組) 5行目	極泉(足の少陰心經)	極泉(手の少陰心經)
367	「その他」 (3)同音異字異穴(16組) 10行目	少府(足の少陰心經)	少府(手の少陰心經)
370	上から3段目 右から1行目	火	水
374~ 376	「参考文献」 日本語文献 3)と14)と25)	盲学校理療科用図書編纂委員会	盲学校理療教科用図書編纂委員会

※ 348頁の「腫脹」という文字を2刷に入れるときに「腫張」となってしまっています。正しくは「腫脹」です。お詫びして訂正いたします

33頁「3. 体表区分」に次の表を追加しています。

『WHO/WPRO 標準経穴部位』の例(頭部と頸部の体表区分)

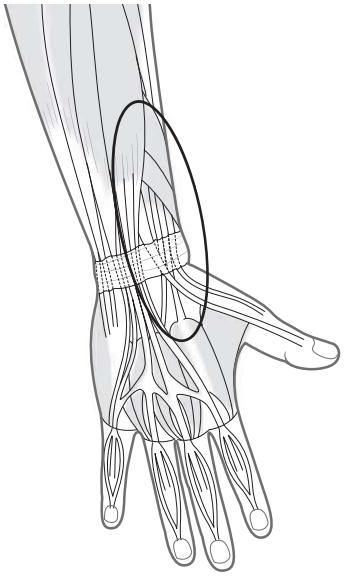
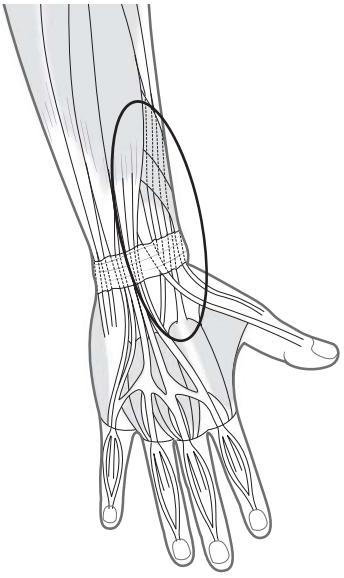
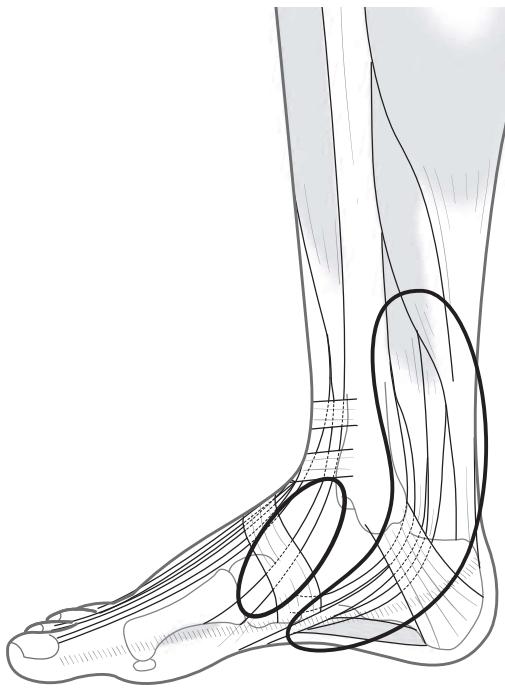
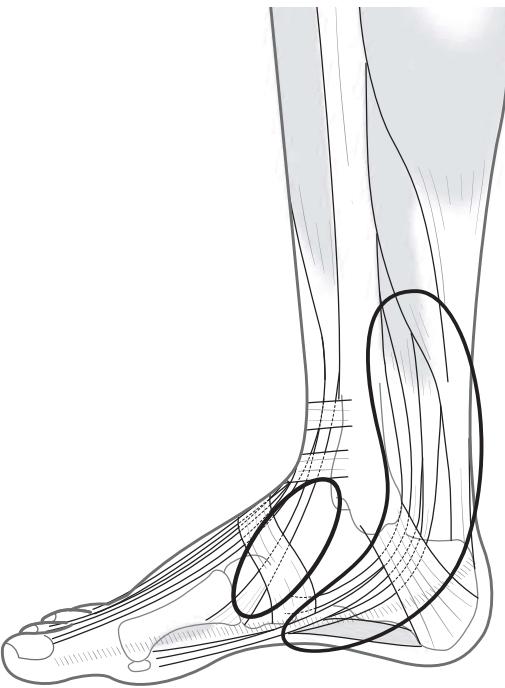
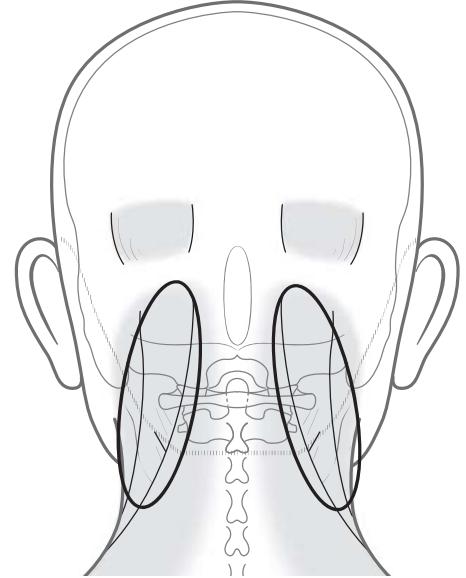
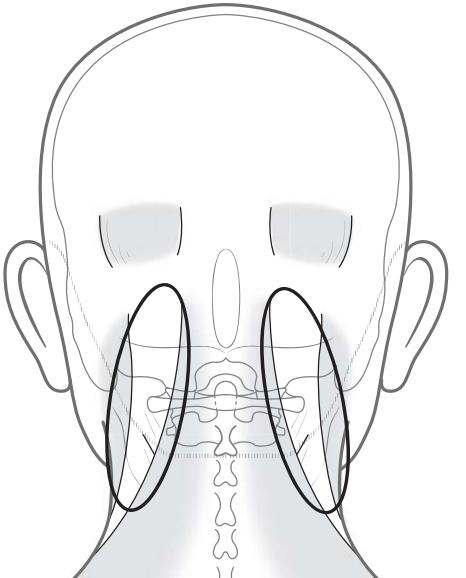
区分		境界
頭部	頭部	眼窩上縁、頬骨弓上端、外耳上端、頸部上端、および外後頭隆起を結ぶ線
	顔面部	眼窩上縁、頬骨弓上端、外耳上端、乳様突起尖端、および下顎骨下端を結ぶ線
頸部	前頸部	上方：頭部と顔面部の下位境界線 下方：鎖骨 後方：僧帽筋前縁
	後頸部	上方：頭部の下位境界線 下方：第7頸椎棘突起と肩峰を横切る線 前方：僧帽筋前縁

(3) 医道の日本社

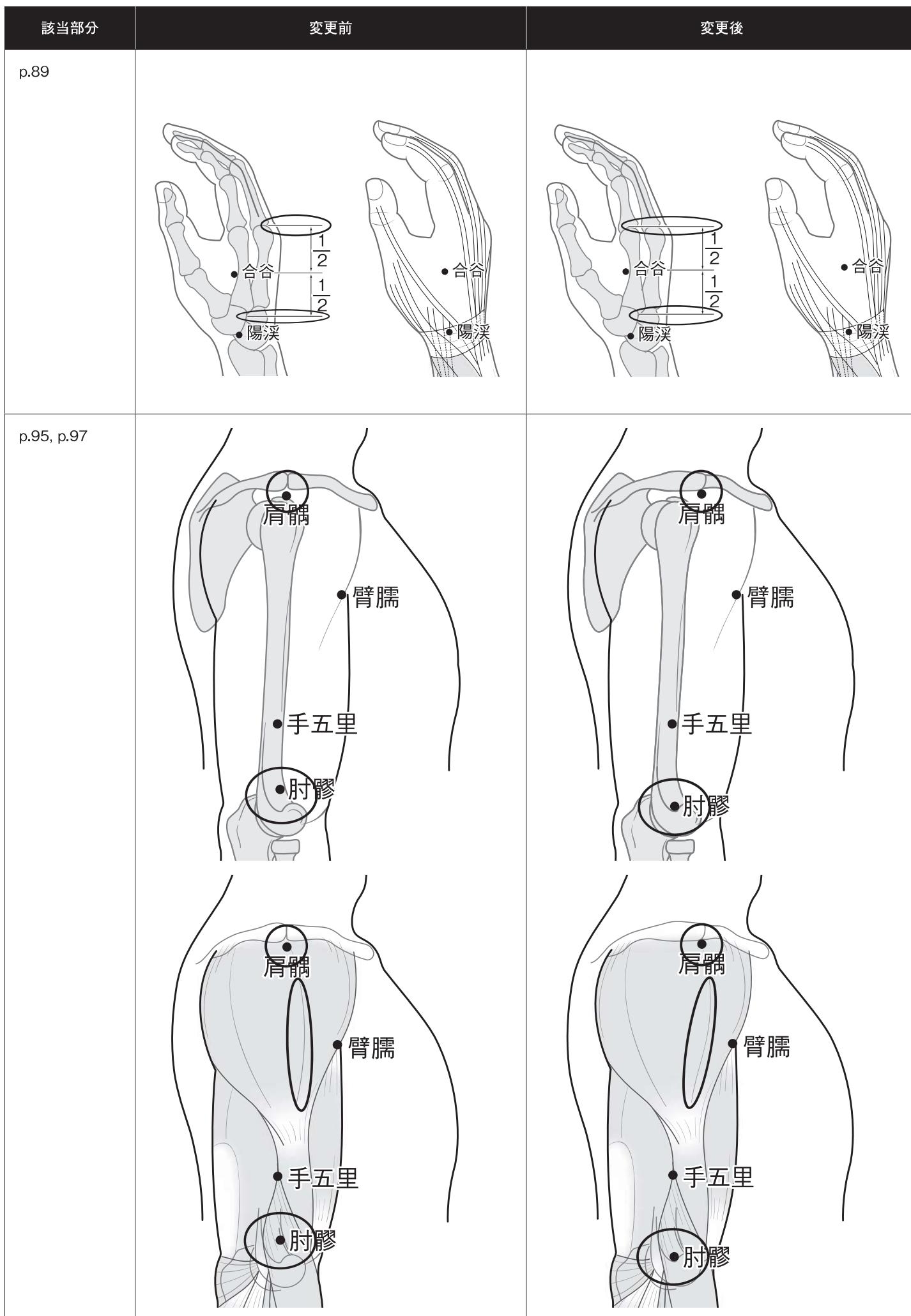
イラスト部分の変更

該当部分	変更前	変更後
すべての側頭部 の解剖図(骨格)		
すべての側頭部 の解剖図(筋肉)		
すべての顔面部 の解剖図(骨格)		

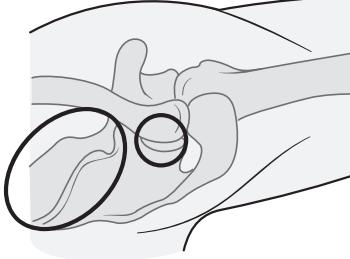
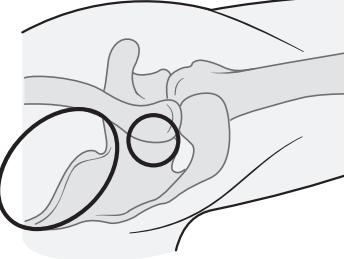
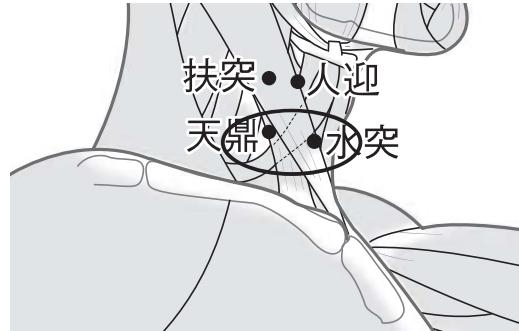
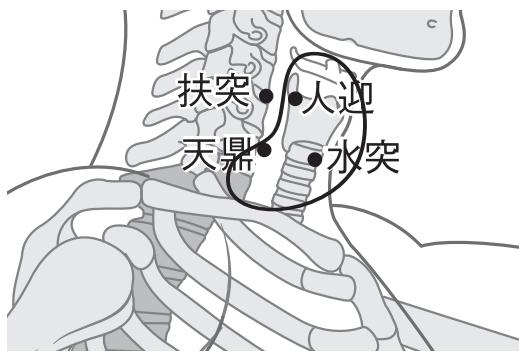
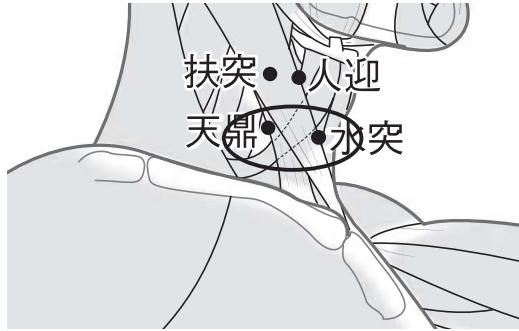
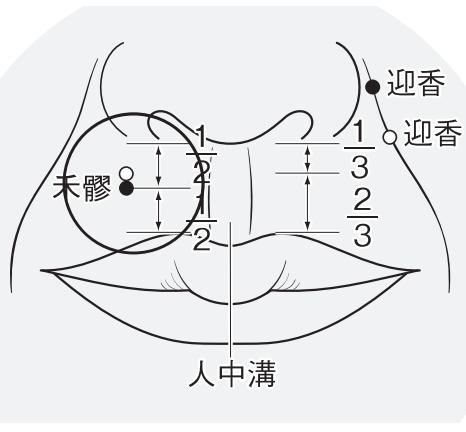
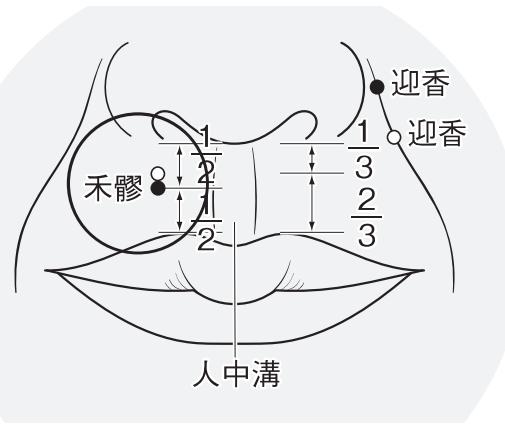
④ 医道の日本社

該当部分	変更前	変更後
すべての前腕背側の解剖図(筋肉)		
すべての足部内側の解剖図(筋肉)		
p.47, p.49, p.187		

⑤ 医道の日本社



⑥ 医道の日本社

該当部分	変更前	変更後
p.97, p.269		
p.99, p.109, p.111	 	 
p.101		

(7) 医道の日本社

該当部分	変更前	変更後
p.125, p.127		
p.129, p.131		
p.133, p.135		